

# 琉球大学学術リポジトリ

## 特色GP

“「教育の場」としての図書館の積極的活用” —  
これまでの取組と将来への課題 —

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2008-10-16 キーワード (Ja): 情報リテラシー教育, 特色ある大学教育支援プログラム (特色GP), 明治大学図書館 キーワード (En): 作成者: 広沢, 絵里子 (明治大学図書館副館長), Hirosawa, Eriko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/7508">http://hdl.handle.net/20.500.12000/7508</a>

## 特色GP「教育の場」としての図書館の積極的活用

—これまでの取組と将来への課題—

2008年10月10日 於:琉球大学附属図書館  
講演会「情報リテラシー教育と図書館」  
広沢絵里子(明治大学)

1

## 1. 「教育の場」としての図書館の積極的活用



- 平成19年度特色GP
- 若者の活字離れ⇔大学図書館の高度化
- 図書館利用者教育による「橋渡し」の必要性
- 図書館を通じて育てる自立した「個」

2

## 2. 取組の全体像

- 取組の具体的内容
- 多角的な教育活動
  - ① 学部間共通総合講座「図書館活用法」
  - ② ゼミツアー
  - ③ デジタルコンテンツ
  - ④ フリーツアー、出前講義、各種講習会

3

## 学部間共通総合講座「図書館活用法」



- 2000年度開講  
選択科目の正課授業
- 2単位付与(半期、14回)
- 教員と図書館員の協働授業
- 授業資料、授業評価アンケートの公開

図書館活用法ホームページ

<http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/index.html>

4

## ゼミツアー



- 教員からの要望で開催
- ゼミ、授業時間内に実施
- 出席回数にカウント
- オプション性を高める工夫(申込用紙、事前打合せ)
- 教員のフォロー

中央図書館ガイダンス

<http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/class/seminar/index.html>

5

## デジタルコンテンツ



- 2006年度より公開
- 2008年3月現在「図書館活用法」講義(6コンテンツ)  
図書館ガイドツアー(3コンテンツ)
- 学生、卒業生、一般社会人

図書館活用法デジタルコンテンツ

<http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/stream/C06850011.html>

6

### 3. これまでの成果と今後の展望 — 総合講座「図書館活用法」

- 講義体制—教員・職員の協働
- 講義内容—現代的課題への対応
- 履修状況—履修者数、授業環境
- 課題とレポート
- 学生の満足度(授業評価アンケート)

7

### 講義体制(2007年度)

赤字は教員担当、黒字は図書館員担当

① 大学図書館への招待	⑧ 新聞・雑誌情報の探し方(1) 【実習】
② インターネット講習	⑨ 新聞・雑誌情報の探し方(2) 【実習】
③ 明大図書館の施設・蔵書・サービス	⑩ 書物の愉しみ
④ 図書の探し方(1) 【実習】	⑪ レポート・論文の書き方
⑤ 図書の探し方(2) 【実習】	⑫ インターネット情報の探し方 【実習】
⑥ 図書の歴史と図書館	⑬ 様々な文献の取り扱い方 【実習】
⑦ 図書による情報の探し方	⑭ 図書館と著作権

8

### 講義内容—現代的課題への対応

#### MINDインターネット講習会 WEB資料

#### MIND(明治大学総合情報ネットワーク)

#### 規程、遵守事項

明治大学は「SINET」等を通してインターネットを利用する人は以てます。

- (a)研究・教育並びにその支援のため
  - (b)営利を目的とした利用を行わないこと。
  - (c)通信の秘密を侵害しないこと。
  - (d)ネットワークの運用に支障を及ぼすような利用を行わないこと。
  - (e)ネットワーク及び接続するコンピュータに対する不正行為等が発生しないよう最善の努力を払うこと。
  - (f)その他所長が別に定める事項。
- ～国立情報学研究所学術情報ネットワーク加入規程第7条より抜粋  
また、明治大学内にも「MIND 利用基準」という規程が設けられています。この利用基準を

9

#### <学部間共通総合講座> 図書館活用法

第12講  
図書館と著作権  
—レポート・論文作成のための著作権—

#### 引用(第32条)

##### 【引用の要件】

- 公表された著作物
- 引用は公正な慣行に合致
- 報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内
  - ・かぎカッコをつけるなど、引用部分と自分の著作物が明瞭に区別されていること
  - ・自分の部著作物が主、引用部分が従の関係にあること
  - ・引用される側の著作人権を侵害しないこと
- 著作物の出所を、合理的と認められる方法及び程度により明示(第48条)

#### 学部間総合講座 図書館活用法

#### レポート・論文の書き方

担当 広沢絵里子(農学)

#### 2. 「引用」を通じて考える論文の技術・マナー・発想法 a. 引用の準備(技術)

- ・ 情報カード(アナログ)  
文献からの字句通りの書き抜き  
文献の一定範囲の要約  
↓
- ・ Wordファイル(デジタル化)  
個人データベース  
便利な検索  
「Google デスクトップ」等の活用



### 履修状況—履修者数、授業環境

表1 『図書館活用法』の履修者数

年度	駿河台	和泉	生田	履修者総数	
2000	115		210	325	
2001	150		176	326	
2002	236		201	437	
2003	130		223	198	551
2004	177		575	292	1044
2005	87		457	155	699
2006	133		523	160	823
2007	77		241	約150	約468
2008	118		304	約80	約502

	駿河台	和泉(2006～)	生田
設置コマ数	前期1コマ	前期2・後期2(合計4コマ)	後期1コマ 12

## 課題とレポート

- 文献調査課題(初回授業)
- 各実習授業における検索課題
- 期末レポート:一般常識的テーマについてのエッセイ(2000字程度)
- ネット社会、環境問題、少子化...
- テーマに関する文献リストの添付
- 読んだ文献からの「引用」と、「注」の表記
- 「論文」の形式を意識した作文

13

## 学生の満足度(授業評価アンケート)

- 「図書館活用法HP」での公開
- 和泉キャンパス(1・2年次)
- 授業環境の改善
- 実習授業を好む傾向
- 「図書館活用法」以外の授業における、情報検索技能の利用、レポート作成への活用
- 複雑なレポートへの改善要望
- 100点満点評価:60点台から70点台へと向上

14

## ゼミツアー 参加者数の動向

表2 「ゼミツアー」に参加したゼミ数及び人数

		2004	2005	2006	2007	2008 前期
駿河台キャンパス	参加ゼミ数	80	96	82	109	92
	人数	976	1068	1021	1278	1077
和泉キャンパス	参加ゼミ数	61	114	130	142	131
	人数	1131	2084	2416	2528	2273
生田キャンパス	参加ゼミ数	2	6	8	6	29
	人数	40	140	127	251	733

15

## 4. 今後に向けて(「図書館活用法」関連)

- 講師間の連携強化
- レポート、課題、成績評価のあり方
- 学生の満足度と教育効果
- 学内における図書館リテラシー教育の展望
- プログラム評価の実施→2008年度4月～

16

## 4. 今後に向けて(この取組全体)

- 図書館員の専門性を高める研修体制の確立→スタッフ・ディベロップメント(SD)研修の実施(2008年度)
- リテラシー教育施設の拡充
- デジタルコンテンツの充実
- アンケート調査を分析、公開し、パブリックコメントを得るシステムの確立

17

## 5. 2007年度末～2008年度の取組

- 諸課題への取組として、
  - (1)ワークショップ開催
  - (2)評価活動の開始
  - (3)SD研修会の実施

18

## 諸課題への取組 (1)ワークショップ

- 2008年3月 明治大学において特色GPワークショップ「図書館の持つ教育力について考える」を開催
- 取組に関与する学生・教職員からの多角的な検討
- 図書館によるリテラシー教育活動を、大学全体の情報リテラシー教育の中でどう位置づけるか、という課題が明確化

19

## 諸課題への取組 (2)評価活動

- 2008年4月～ 総合講座「図書館活用法」に関する「プログラム評価」
- ハワイ大学の、教育プログラム・アセスメントを専門とする研究チームの協力
- 従来の「授業評価アンケート」とは異なり、「図書館活用法」という教育プログラムを新しい目で捉えなおす機会
- 「図書館活用法」を学内全体の教育活動の中に位置づける試み

20

## 諸課題への取組 (2)評価活動

- 2008年4月「図書館活用法」関係者(タスクフォース、教職員講師)によるワークショップ
- 「プログラム評価」とは何か
- 「図書館活用法」の何を改善してゆくのか
- 「学習到達目標の設定(どのような知識・スキルをどの程度?)」を最優先課題とする

21

## 諸課題への取組 (2)評価活動

- 「図書館活用法」に関わる関係者(ステークホルダー)へのアンケート調査
- タスクフォース、教職員講師:何を教えたのか(教育ニーズ)
- 履修学生:何を学びたいのか(学習ニーズ)
- 学部教員:リテラシー教育への期待
- リテラシー教育に関する決定権を持つ学内役職者:将来展望に関わる問題?

22

## 本学におけるリテラシー教育の模索

- 本学におけるリテラシー教育:定義づけの試み
- 図書館リテラシー:学生が本学図書館の役割・特色を十分理解した上で体系的な図書館利用をするためのノウハウ
- 情報リテラシー:図書館所蔵資料はもとより、世界中に流通する膨大な図書、情報に自らアクセスして適切な資料を見つけ出し、批判的検証ができる能力や知識基盤社会を生き抜くための知力、
- 学術リテラシー:大学で学ぶための基本的技法や検索した資料を利用してレポートや論文に仕上げていく能力、を含んだ総合的な知力。

23

## 図書館の教育力のさらなる活用のために

- 図書館と学部教育との関係強化:住み分け⇔融合?
  - 「平成19年度特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」ホームページにて資料公開
- ↓
- 「明治大学図書館HP」からご覧ください。  
<http://www.lib.meiji.ac.jp/about/gp/index.html>

24

- ご意見、ご質問をお待ちしております。  
ご清聴ありがとうございました。